

今こそ考えよう 平和の尊さ

上越市主催 平和展 高田図書館にて8月20日まで

上越市は、戦争の悲惨さと平和の尊さを語りつごうと、毎年「平和展」を開催しています。

今年は、7月12日～8月20日の期間に、戦争当時の「銃後」(戦場に兵士を送り出して残された人々の生活)の様子を示す資料の展示や、長崎原爆資料館の原爆被害を記した写真パネルの展示、広島を訪れた中学生の感想文の展示などを行っています。

また、8月6日には、直江津捕虜収容所で起きた悲劇や収容所跡地に造られた平和記念公園について、上越日豪協会の会長さんがお話しするほか、漂着した機雷が爆発し多くの人が犠牲になった「名立機雷爆発事件」について、実際に体験した人が語ります。

これから、8月6日、9日、15日と戦争にま



つわる日が続きます。家族や友人などの間で、平和について考える良いチャンスです。

一方で、あの戦争への反省の基に作られた平和憲法に対して「みっともない憲法ですよ。はっきり言って」と言い放ち、「憲法改正は私の歴史的使命」と主張する安倍首相は、秋の臨時国会に憲法改悪案を提出することをもくろみ、「この夏に汗を流しながら(改憲項目を)絞っていく」と放言しています。

今こそ、あらためて戦争の悲惨さと平和の尊さをかみしめ、安倍首相の暴走と憲法破壊の企みをストップさせましょう。

なお、これとは別に市民団体が主催する「今日の平和展」「平和のための戦争展」などの催しも、秋に向けて計画中的とのことです。



日本共産党上越市議員団ニュース

No. 556 2017年7月30日

- 連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
- 絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
- 先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
- 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)



この2年で90の施設を廃止・休止

行政改革調査対策特別委員会で報告

市議会行政改革調査対策特別委員会の所管事務調査が13日に行われ、「公の施設の再配置計画」等に基づく取組の進捗状況が報告されました。

報告によると、2015年度には62の施設、2016年度には28の施設について、それぞれ休止または廃止の措置が行われ、さらに、今年度は7施設、来年度は30の施設について、休止または廃止を進めるとしています。

この間廃止された主な施設には、柿崎黒川ゲートボール場、安塚ほのぼの荘、板倉ふれあい市場、浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ、上越セミナーハウス、厚生北会館、菖蒲・大島・保倉などの公民館分館、母子生活支援施設ひまわり荘、増村朴斎記念館、名立小泊駐車場、牧中学校屋外運動施設の夜間照明施設などがあります。

それぞれ、地域のみなさんの長年の願いが実って建設された施設や、長い間各地域で大切にされてきた施設ばかりです。

中には、老朽化したり、耐震強度が不足していたりするなど建物物の存続自体が困難というものもありますが、逆に「まだまだ使える」というものもあります。

委員会の審議では、所属する上野公悦議員が、「それぞれの施設には各地域のみなさんの思いがこもっている。その思いを尊重することが大切だ。利用度が落ちていくことだけで判断すべきではない」と指摘しました。

これに対して、市側は「その通りだ。これまでは規定の通りに休止や廃止を進めてきた傾向がある。今後は地域住民としっかり話し合って決めていきたい」と答えました。

なお、日本共産党議員団は、「利用者を中心とした市民の意見を十分に把握し、一定の利用者がいる施設に関しては、あくまで存続を図ること」などの見解を中心とした「『公の施設の再配置計画』に対する提言」をホームページで公開しています。



往事の増村朴斎記念館(左)と浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ(右)